

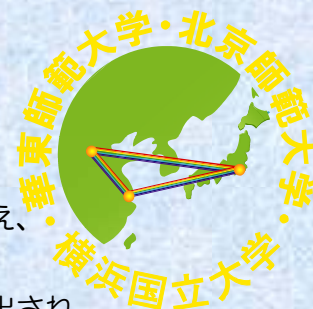
【2月22日（木）】報告会

いよいよ報告会当日。

午前中は参加者全員が集まり、本セミナーで学んだことや感じたことを一人一人発表し合いました。

2時からは本セミナーの締めくくりとして、一般参加者も交え、教育文化ホールにおいて報告会を開催しました。

会場には前日まで行われたセミナーの活動状況が写真で張り出され、参加したみなさんは興味深げに見入っていました。



28) 午前中に行われた全体交流会では、参加者全員が感想を述べ合いました



29) 報告会会場にはセミナーでの活動の様子が張り出され参加者が見入っていました

報告会では金澤国際社会科学研究所長の挨拶に続き、日本や中国を紹介するDVDが上映された後、各大学から2名の代表者及び中国の両大学から横浜国立大学に短期留学中の学生2名が報告発表しましたが、中国から参加した学生達は、この日明け方近くまで、みんなで発表の内容を練ったり、写真を選んだりして資料作成作業を続けたそうです。

14日に中部国際空港に降り立ってから、前日までの活動の様子が手に取るようにまとめられ、短時間のあいだに、これだけの資料を作ったことに賞賛の音がしきりでした。

中国の学生達の観察眼はするどく、普段私たちが見落としているような細かな所にまで視線を配り、写真に残していました。日本の印象としては「公共交通の便利さ」、「町の清潔さ、空気の綺麗さ」、「日本人の勤勉さ」を挙げる学生が多かったです。

中には、「トイレに置かれた小さな椅子（荷物置き用）の利用方法」について、どのように座るのか・・・といった考察、日本の食事の量が少ないのは、日本人の



30) 報告会の様子



31) 全体会で発表する参加者

儉約の精神から来ていると思う・・・といった日本人側からみるとエッ?!、そんな風に思うの?といった感想も飛び出し、改めて文化の違いを感じたりもしました。発表者は一様に、日本で見て、聞いて、感じた事を中国に帰ってから、今回参加できなかった友達に全て伝えたいと締めくくっていました。

本学の学生からは昨夏と年末に中国を訪問したときに受けた中国の印象や、心に残るもてなしについてそれぞれ報告がありました。

3大学の学生に共通した思いは、実際にその国を訪れ、交流することで初めて判ることが多く、他の学生にも是非足を運んでその国のことを見て、交流して欲しいと感じたとの事でした。



32) 鈴木副学長から参加証明書が贈られました

閉講式では、北京師範大学の朱志敏教授及び華東師範大学羅忠州講師の教員から、本セミナー開催についてのお礼の言葉と、今回の訪問が、参加者だけでなく、帰国後の報告等を通じて沢山の学生、教職員の役にたつであろうとの感想が述べられました。そして、今後ともこうした交流を続けて行くために、お互いに協力して努力して行く事への決意が語られました。

最後に、鈴木教育担当副学長から3大学（北京師範大学、華東師範大学、横浜国立大学）の各代表参加者に、セミナー参加証明書が手渡され、本セミナーは閉講しました。

夜は大学会館シェルシュで歓送会が行われ、渡辺副学長の「最後の夜を楽しんでください」との挨拶の後、長島理事の乾杯の発声で和やかな雰囲気の中、日中の学生、教員と一緒に写真に収まったり、メールアドレスを交換したりして、日本での最後の夜を楽しみながら、この出会いを大切にこれからも交流を続けていくことを約束していました。



33) 笑顔での懇談がつづきました



34) 一緒に写真に収まって・・・

【2月23日（金）】 帰国

一行は、新横浜から新幹線に乗り、日本での沢山の経験や思い出を胸に中部国際空港からそれぞれの地に帰国しました。